

平成25年度第2回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成25年10月1日（火）

場所：多治見市役所5階第1会議室

出席委員：伊藤会長、加藤（誠）副会長、加藤（彰）委員、田中委員、坂崎委員、井深委員、安藤委員、山田委員、奥村委員、中島委員

欠席委員：新山委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長
市川課長代理、田中主査、原主査

議題

- ① 第9次廃棄物減量等推進審議会 会長・副会長の選任について
- ② 平成26年度に重点的に取り組む施策について
- ③ 分別収集啓発について
- ④ その他

1 開会挨拶

環境文化部長挨拶
委嘱状について

2 議題

議題①

（廃棄物減量等推進審議会の概要について、資料に基づき事務局より説明した後、会長・副会長の選出方法等について、意見を求める）

結論：事務局からの推薦による選出方法で同意。

会長 伊藤 秀章委員、副会長 加藤 誠二委員に決定。

議題②

（平成26年度に重点的に取り組む施策について、資料に基づき事務局より説明）

概要：多治見市循環型社会システム構想の目標を達成するための具体的方法として、第2次一般廃棄物（ごみ処理）基本計画、環境基本計画の期間内に実施する施策を掲載しており、この目標を達成するために来年度重点的に取り組む施策について、ご意見を伺いたい。

結論：提案のとおりで決定。

主な意見

- ・ 草木類のリサイクルについて、これから調査研究するとのことであるが、今はどのような状況か。

→現状は、家庭から出る草木類については、燃やすごみとして処理している。公園や市道の伐採木は、市内事業者（山田林業）に委託して粉碎し再資源化を行っている。他市の事例としては、草木類のみを分別して収集したり、各戸で堆肥化するような取り組みを支援しているところもある。どのような方策がいいのかを含めて調査検討していきたい。

- ・ 草木類のリサイクルはどのように処理されるのか。

→草や木枝を細かく粉碎し、細かいものは、堆肥の原料として売払い。粗いものは、バイオマス燃料として販売することが多い。

- ・ 多治見市はバイオマスの発電を考えているのか。

→発電できるほどの量が出ないので、バイオマスの発電は考えていない。

- ・ 日本は森林資源が豊富なので、再生可能エネルギーとして、今後検討されてはどうか。

- ・ 生ごみ処理で、「地域単位、事業者単位による生ごみ堆肥化等の取り組み誘導等の検討」と「事業所・家庭の生ごみ減量」との具体的施策の違いは何か。

→地域単位など大きな単位で、取り組みたいというもの。過去にモデル地域で実施してみたが、排出されたものの中に堆肥化できないものが混入されていたということがあり、課題が残った。まずは、各家庭単位での取り組みを進めたいという趣旨である。

- ・ 環境基本計画中の環境モデル校とあるが、現在モデル校はあるのか。

→現状はない。廃棄物をテーマに取り組んでいただいている学校とは、連携を取りながら市として手助けが出来ればと思っている。施設見学については、市内の小学校 4 年生が、三の倉センターについては、全学校が、大畑センター、愛岐処分場については一部の学校が見学をしている。

- ・ エコカレッジは、講座を終了すると「マイスター」のような資格認定されるのか

→認定というものではないが、受講者が活動する側に回っていただき、地域で活動していただいたり、後進の育成をしていただくことを期待するもの。講座終了後には、修了書をお渡しする予定。

- ・ 事業所のごみ減量化策の検討と指導は、生ごみの減量のことか。

→すべてのごみを減量するための施策を検討し指導していきたい。現状は、事業系ごみの 4 割が生ごみであるため、その減量に向けての施策を検討していかなければならないと考えている。

- ・ 市内事業者のごみの搬出方法の啓発が大事。収集運搬許可業者が収集した生ごみで堆肥化することも検討したが、市内事業者から排出されるごみは、分別されずに排出される

ことが多いため、堆肥化は困難。

- ・ 使用済みスプレー缶に穴をあけて出すことについて、今後も同様に実施するのか。他市では、穴を開ける際に引火したという事故があった。
→処理するには、必ず穴をあけて処理しなければいけないので、今後も、排出される方で穴をあけていただくように指導していきたい。

議題③

(分別収集啓発チラシについて、資料に基づき事務局より説明)

概要：今年度重点的に取り組むごみ減量施策として、分別排出の重要性、ごみ減量及び資源の有効利用について掲載し、広報折込により啓発を行うもの。前回の審議会でもいただいた意見をふまえてチラシ案を作成したので、ご意見を伺いたい。

結論：いただいた意見を取り入れて修正することとするが、意見の追加がある場合は、10月10日ごろまでに事務局に連絡いただきたい。

主な意見

- ・ 陶磁器は、すべてが Re 食器になるわけではなく、耐火物の原料となることのほうが多いのが現状であるため、Re 食器+αの表示ができないか。
- ・ スラグや溶融メタルとは何かという説明をいれたらどうか。
- ・ 学校や地域の資源回収もご利用くださいということを入れたらどうか。
→市として、収集しており、集団資源回収も一つの方法。どちらでもいいという記載は避けたい。
- ・ 学校での資源回収は、子どもたちのリサイクル意識を高めることが一番の目的であり、掲載は不要と考える。
- ・ 23 分別+1 収集の処理の流れの記載をもう少し工夫したらどうか。有害ごみの内容の記載(乾電池・蛍光管・水銀体温計)を統一してはどうか。

午後15時00分閉会